

第4回 In vivo 実験医学シンポジウム
「In vivo 実験医学の今後の展望」開催に当たって（ご案内）

当研究所は半世紀にわたってわが国の実験動物の開発と普及に努め、医学・医療の研究ならびに創薬研究の基盤形成に努め、世界でもユニークな研究所として発展してまいりました。その目指すところである「個体生命科学」を振興するため、2007年から毎年「In vivo 実験医学シンポジウム」と題してインビボにおける生体機能の解明に関する最先端の研究者の方々をお招きしてシンポジウムを開催してまいりました。

開催のテーマとして、第1回（2007）は「ゲノム解析から In vivo 解析への回帰」、第2回（2008）は「In vivo イメージング」、そして第3回（2009）は「食品の機能性、安全性への In vivo 実験医学の応用」が選ばれました。第4回は理化学研究所の御子柴克彦が世話人となり「In vivo 実験医学の今後の展望」をテーマに以下の内容で行います。

まず基調講演では、複雑な生命体においてはひとつの機能分子が多面的な役割を示すことを小胞体ストレス、カルシウムシグナルの研究を例として神経変性研究におけるマウスから霊長類への新しい展開といったことに触れたいと思います。

その後、以下のサブテーマにつき、それぞれ現在の日本における代表的研究者の方々にお話をうかがいます。

1. 発生・再生に関する最先端研究
2. インビボ生体科学における最近の新しい課題
3. ヒトへの外挿に最も近い霊長類におけるインビボ実験医学

なにとぞ、多くの方々のご支援をお願いいたします。

2010年12月

財団法人 実験動物中央研究所
理事長 兼 所長 野村達次

第四回 In vivo 実験医学シンポジウム世話人
理化学研究所 脳科学総合研究センター
チームリーダー 御子柴克彦

第4回 In vivo 実験医学シンポジウム

～ 「In vivo 実験医学の今後の展望」 ～

プログラム

基調講演 (9:50～10:20)

---マウスから霊長類への神経変性研究の新しい展開---

「小胞体ストレス・カルシウムシグナル・神経変性」

御子柴 克彦

(理化学研究所 脳科学総合研究センター、日本学会協議会・再生医科学分科会世話人)

サブテーマ1：再生医療の萌芽の最先端

講演 10:20～10:55 「生殖工学を用いた新たな動物繁殖技術」

若山 照彦 (理化学研究所 発生再生センター)

講演 10:55～11:30 「間葉細胞からのヒト幹細胞作製とその応用」

出澤 真理 (東北大学大学院医学系研究科細胞組織学分野)

サブテーマ2：インビボサイエンス

講演 11:30～12:05 「体内時計における時間・空間の振動現象」

上田 泰己 (理化学研究所 発生再生センター)

(12:05～13:25 昼食)

講演 13:25～14:00 「発生研究からインビボサイエンス」

大隅 典子 (東北大学大学院 医学系研究科 教授)

講演 14:00～14:35 「クロトー遺伝子のインビボ機能」

鍋島 陽一 (京都大学医学研究科)

講演 14:35～15:10 「高次脳疾患の治療法の開発」

祖父江 元 (名古屋大学大学院)

(15:10～15:30 休憩)

サブテーマ3：霊長類を用いた In vivo 実験医学

講演 15:30～16:05 「トランスジェニックマーマーモセットの作製」

佐々木 えりか (実中研)

講演 16:05～16:40 「パーキンソン病モデルの作製」

安東 潔 (実中研)

講演 16:40～17:15 「AAVベクターによる神経変性疾患の遺伝子治療」

村松 慎一 (自治医科大学)

講演 17:15～17:50 「霊長類を用いた高次機能学習」

入来 篤史 (理化学研究所 脳科学総合研究センター)

懇親会 17:55～19:00

2011年2月23日(水) シンポジウム 9:45～17:50 学士会館 202 号室
懇親会 17:55～19:00 学士会館 203 号室

お申込み

シンポジウム

参加無料

※定員150名

※懇親会は会費制 3000円

2011年2月14日(月)までに、Eメール (in-vivo@ciea.or.jp) またはFAX (044-754-4454) にて、以下を明記し、お送りください。

①会社名・所属、氏名(フリガナ)、電話番号、FAX番号、住所、E-mail ②懇親会(会費3000円)の出入

主 催
お問い合わせ先

(財)実験動物中央研究所

第4回 In vivo 実験医学シンポジウム事務局

TEL: 044-754-4455 E-mail: in-vivo@ciea.or.jp

CIEA
SINCE 1952

第4回 In vivo 実験医学シンポジウムのご案内

主催 (財)実験動物中央研究所

テーマ：「In vivo 実験医学の今後の展望」

現在の生命科学・医学研究は、遺伝子等の分子レベルでの生命現象の理解を、複雑なシステムとしての生体における生命現象の理解や疾患の克服につなげていくというステージにあり、in vivo 実験医学の重要性は益々高まっています。また、最近の霊長類における in vivo 実験医学の進歩により、今まで難しかった脳の高次機能の解明に加え、神経疾患治療法の開発が今後飛躍的に進むものと期待されています。

第4回目を迎える『In vivo 実験医学シンポジウム』では、当財団のアドバイザー委員会委員でもあります御子柴克彦先生に企画をお願いし、ヒト外挿性といった観点でのマウスから霊長類を対象とした研究の最近の成果、発生学や脳研究の最新の話題によって、in vivo 実験医学の今後を皆様方と考えたく思っております。多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。

日時
・
場所

2011年2月23日(水)

シンポジウム 9:45～17:50 学士会館 202 号室

懇親会 17:55～19:00 学士会館 203 号室

シンポジウム **参加無料** ※定員150名 ※懇親会は会費制 3000円



学士会館

東京都千代田区神田錦町3-28

TEL.03-3292-5936

- ・地下鉄都営三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線「神保町」駅下車 A9出口1分
- ・東京メトロ東西線「竹橋」駅下車 3a出口から徒歩5分
- ・「東京」駅北口からタクシーで10分

お申込み

2011年2月14日(月)までに、以下のいずれかの方法にてお申込みください。

E-mailの場合: 必要事項は下記の項目のとおりです。明記の上、in-vivo@ciea.or.jp までお送りください。

FAXの場合: 下記申込書にご記入の上、そのまま **044-754-4454** までお送りください。

いずれの場合も、折り返し E-mail にて返信いたしますので、印刷したものを控えとして当日お持ちください。

申込書

会社名・所属				
氏名	フリガナ	電話番号	FAX番号	
住所	〒			
E-mail		懇親会	<input type="checkbox"/> 参加 <input type="checkbox"/> 不参加	どちらかにチェックをお入れ下さい